

第54回 全国ホテル研究会 北海道日高大会

「日高山脈」

日本一の清流「沙流川」



期日 2023年7月14日（金）～16日（日）

場所 国立日高青少年自然の家
門別総合町民センター
オコタン川（沙流川支流）



NPO法人沙流川愛クラブ「虫保全活動地」



伝統芸能【虫太鼓】

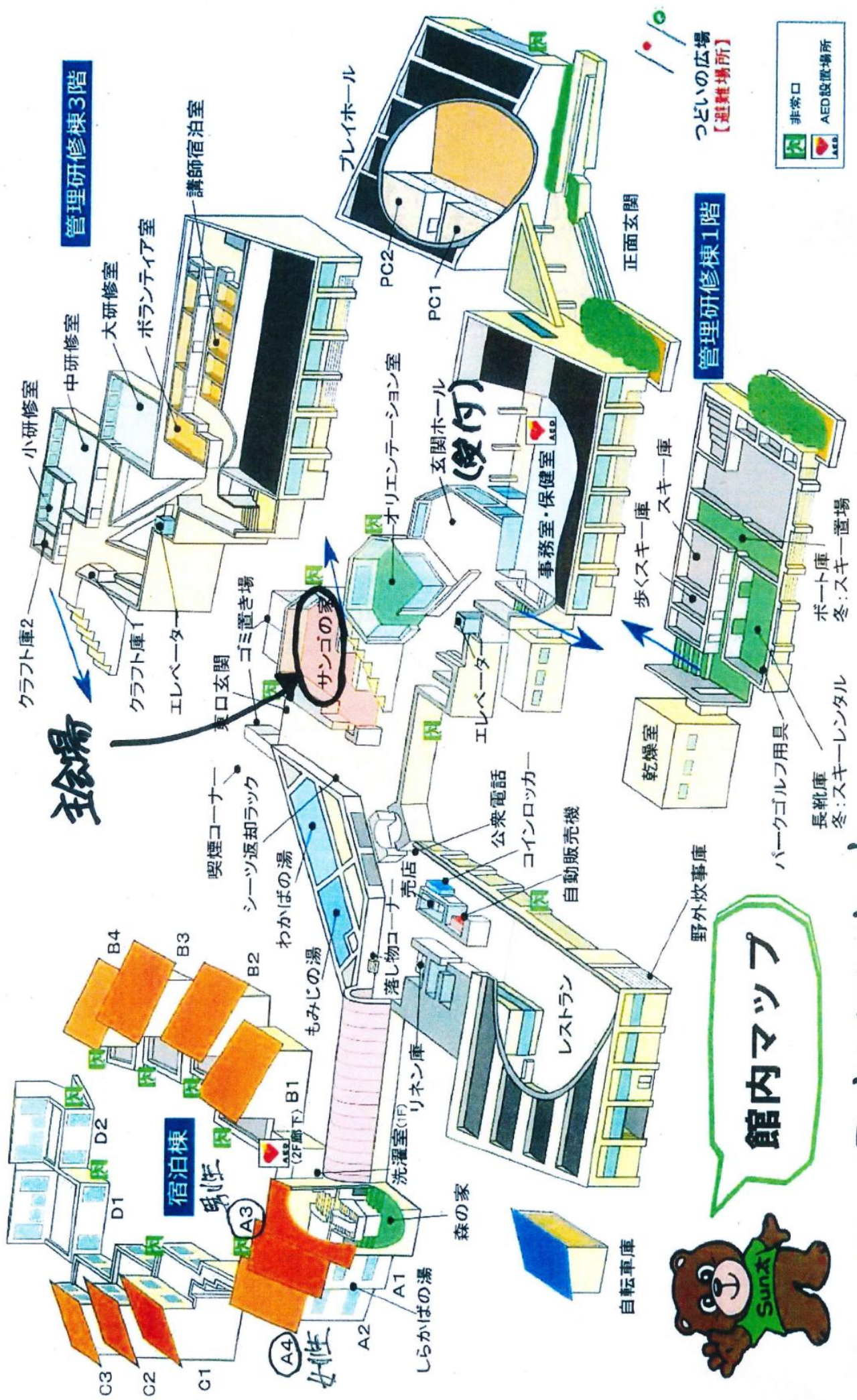
主催：全国ホテル研究会

主管：日高地域活性化協議会

協力：NPO法人沙流川愛クラブ 虫太鼓

後援：環境省 国立日高青少年自然の家 日高町 日高町教育委員会 日高町議会

日高町商工会 日高町観光まちづくり協会



館内マップ



国立日高青少年自然の家

第54回全国ホタル研究会 北海道日高大会に寄せて



全国ホタル研究会
会長 遊磨 正秀

この度、第54回全国ホタル研究大会が、北海道日高町において全国の会員ならびに地域のみなさまの参加により開催されますことを心よりお祝い申し上げます。まだまだコロナウィルス禍の不安が残る状態ではありますが、みなさまのご協力のもと、全国大会を開催することができました。

昭和43(1968)年に始まりましたこの全国ホタル研究会の歴史は半世紀を超え、平成30(2018)年の第51回大会は日本最北の北海道稚内で、平成31(2019)年の第52回大会は最南とも言える沖縄県久米島で開かれました。今回は昨年近畿地方に次いで、北海道での大会となります。北海道では平成9(1997)年の恵庭大会と上記の稚内大会の後、今回で3回目の開催となります。

北海道日高町日高地区は、清流・沙流川の源流部を有する日高山脈襟裳国定公園内に位置し、豊かな自然を利用してさまざまな自然教育活動に取り組まれていると聞いています。また、沙流川河口部の日高町門別地区では沙流川支流オコタン川においてホタル保全活動が行われ、そこから郷土芸能「蛍太鼓」が生まれたそうです。今回は、その郷土芸能の伝承に取り組まれている青少年の方々による演奏を楽しませていただき、さらにホタルの光も楽しませていただけることを楽しみとしております。

北海道での生き物の季節は全般に遅く、ホタルの発生も例外ではありません。本州より南ではもうホタルの姿も減っている季節ですが、北海道でのこの季節と情景を楽しみながら、私たちの暮らしの身近な場所で飛び回るホタルやさまざまな生き物たちのこと、それらの情景により豊かな心身を育むことができるような環境について語り合い、本大会が、多くの方々の今後の活動に有益な場となることを願っています。

第54回全国ホテル研究会 北海道日高大会開催挨拶



日高地域活性化協議会
会長 大野 正夫

全国各地から、遠い北国の地「日高」にお越し頂きありがとうございます。主管団体の代表者として一言ご挨拶申し上げます。

ホテルと言いますと野坂昭如が書いた「火垂るの墓」を想います。戦争で父を、B29の爆撃で母を亡くした2人の兄妹、清太14歳と妹の節子4歳の話です。空襲で家を焼かれ、親戚の家に身を寄せるのですが、食糧不足のなか居づらくなり壕に棲むこととなります。ある夜、いっせいに飛び立つ何百ものホテル。その美しい光が蚊帳の中一杯に広がり二人を包み込みました。朝になるとホテルはみんな死んでいました。節子はそれを集めて土に埋めて言いました、「これ、お墓やねん、お母ちゃんも入ってんねやろ。」食べるものが無くなり、清太がなけなしのお金をはたいて買ってきたドロップをなめながら節子は目を閉じてしまうのです。

なんとも儂い話ですが、何より今も世界では戦争が続いていますが、戦争の被害者は生きる力の無い子どもたちであると思います。

さて、この日高町は豊かな自然、生態系が残されているところです。開拓以降、林業が盛んとなり原生林が伐採されてきましたが、植林されたり、森林が復活したり、と自然が戻ってきました。日高山脈の核心部には、今も原生林が残っています。

私は、12年前に大阪から日高に移住して以来、自然観察を続けています。雪解けと共に福寿草、水芭蕉、ソラチコザクラなどが咲き、今はエゾノハナショウブが咲いています。清流、沙流川にはカジカ、オシロコマが棲んでいます。エゾライチョウ、クマタカ、オジロワシ、オニグルミの好きなエゾリスなどがおり、エゾユキウサギは町の中で子育てをしています。ヘイケボタルは採草地の脇の水路で観察することが出来ます。

本大会では、研究成果の発表や各地での保存活動を交流され、研究大会が実りあるものになることを願っております。

私ども主管団体は、参加者の皆様が心地よく参加できるよう努力する所存です。

第54回全国ホタル研究会 北海道日高大会歓迎挨拶



日高町長 大鷹 千秋

第54回全国ホタル研究会北海道日高大会が開催されますことをお喜び申し上げますとともに、皆様を心より歓迎いたします。

私達のまち日高町は、日高地方の西部に位置し、間に平取町を挟んだ「飛び地」になっており、日高地区から門別地区に流れる「沙流川」の源流から河口にかけて構成されています。沙流川は、過去10年間で国土交通省の全国一級河川の水質現況調査で7回も水質が最も良好な河川に選ばれており、この清らかな水は多くの農産物を育むと共に、ししゃも漁が古くから行われ、近年は上流部でラフティングやキャニオニングなど水に親しむスポーツのメッカになっています。

沙流川下流の支流としてオコタン川があります。オコタンとは、アイヌ語で「河口に人家のある葭原」という意味で、市街地の際にある湿地帯となっており、昔からホタルが生息しておりました。

2001年に結成された特定非営利法人「沙流川愛クラブ」では、沙流川でのニホンウナギの生息調査やオコタン川の保全とホタル鑑賞会を毎年、開催していただいております。今回の研究会でも、「沙流川愛クラブ」の方々によるオコタン川にあるホタル保全地の見学が予定されています。

オコタン川のホタル生息地保全活動から生まれたのが門別地区の伝統芸能「蛍太鼓」です。清流に生を落とした幼虫が、やがて成虫となり夏の夜空を乱舞するホタルを表現した代表曲の「蛍太鼓」などを歓迎式で演奏いただくことになっております。

二日目の会場となる国立日高青少年自然の家は、全国6番目の施設として1982年に開館した野外教育活動の拠点施設です。自然の家は北海道の尾根である日高山脈の麓に位置しています。日高山脈は現在、日本最大規模の「日高山脈襟裳国定公園」に指定されておりますが、来年度、指定区域が拡大されて、大雪山国立公園に次ぐ面積を有する国内35番目の国立公園に指定される見込です。

このようにホタル保全活動や野外教育活動が行われてきた本町において、北海道日高大会が開催され、全国からホタルの研究や保全活動に取り組みされてきた方々が一堂に会し、ホタルに関する研修や意見交換、情報交換が行われることは意義深いことであり、本大会を通じて、改めて本町における自然環境への理解が深まるものと期待しております。

結びに本大会の開催にご尽力いただきました皆様に深く敬意を表しますとともに、大会のご成功と研究会のますますのご発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

【プログラム】

※場所の「国少」とは「国立日高青少年自然の家」の略

日	時	内 容	場 所
【1日目】 7月14日(金)	12:35	日高町行き町営バス発	占冠駅前
	13:30~14:30	参加者受付	国少玄関ホール
	13:30~14:30	全国ホテル研究会理事会	国少オリエンテーション室
	15:00~16:30	移動(専用バス) ①国少出発便 ②高原荘・松屋旅館出発便	国少玄関前発 ひだか高原荘発・ 松屋旅館経由
	17:00~18:00	歓迎式 歓迎アトラクション 「蛭太鼓演奏会」	門別総合町民 センター2階 (会場入口で 弁当配布)
	18:15	専用バス乗車(乗車前にトイレ)	町民センター前
	18:20~19:30	ホテル保全活動地見学	オコタン川
	19:30~21:00	移動(専用バス) ①国少直行便 ②高原荘・松屋旅館便	わか川入口発 国少玄関前着 松屋旅館経由・ ひだか高原荘着
	21:00~21:30	入浴(国少宿泊者限定)	男性 わかばの湯 女性 もみじの湯
【2日目】 7月15日(土)	7:30~9:00	朝食(国少宿泊者限定)	国少レストラン
	9:00~10:00	全国ホテル研究会総会	国少サンゴの家
	10:15~12:00	特別講演「ホテルの水 人の水」 遊磨正秀会長(理学博士) 会員発表(道外より)	
	12:00~13:00	昼食	国少レストラン
	13:00~16:00	北海道地区活動発表 シンポジウム 「里山の生態系とホテル」	国少サンゴの家
	17:00~18:30	ひだから(日高の宝)夕食会	国少グリーンホール
	18:30~20:30	ひだから交流会(キャンプファイヤー) ※雨天時は夕食会場で実施	国少A営火場
	20:30~21:30	入浴(国少宿泊者限定) ※他の時間は入浴不可	男性 わかばの湯 女性 もみじの湯
【3日目】 7月16日(日)	7:30~9:00	朝食(国少宿泊者限定)	国少レストラン
	8:45	占冠駅行き町営バス発	日高総合支所前
	9:00~12:00	体験プログラム参加	日高地区各所
	12:00~13:30	昼食	国少レストラン
	14:05	占冠駅行き町営バス発	日高総合支所前

歓迎式・歓迎アトラクション

主催者挨拶 全国ホテル研究会 遊磨 正秀会長

主管団体挨拶 日高地域活性化協議会 大野 正夫会長

歓迎挨拶 日高町長 大鷹 千秋 様

来賓者紹介

歓迎アトラクション (蛍太鼓演奏会)

蛍太鼓とは

1979年、町づくりの一環として、ホテルの育成を試み、沙流川支流のオコタン川に幼虫のえさとなるカワニナを約10年放流し続け、1989年に初めて数十匹のホテルを確認したことから、同年子どもたちの健全育成を兼ね、蛍太鼓が結成されました。

現在は子どもだけではなく大人を含めて20人ほどのメンバーで日々練習に励まれ、地元の祭やイベントをはじめ道内各地のイベントに出演するなど演奏活動を続けておられます。

ホタル保全活動地見学

同日には、町民向けのホタル鑑賞会も開催されますが、保全活動を行っている NPO 法人沙流川愛クラブでは、ホタル数の減少等保全活動についての悩みをお持ちとのことで、今回は鑑賞ではなく、現地をみながら保全活動についての意見交換を主に行っていただきたいと思います。

ホタル観賞会

日時 令和 5 年 7 月 14 日 19:30~

場所 日高町富川東 2 丁目 905-1

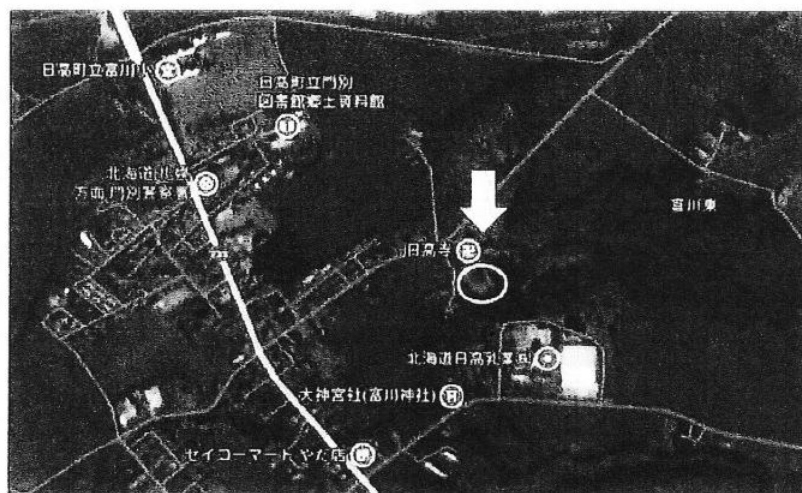
日高寺裏駐車場

ホタルが飛ぶのは
20:00 頃~

関係者等は 18:20 頃から現地にいますので、ご案内します。

共催 日高町教育委員会

★MAP★



出典: googleMAP

主催 NPO 法人 沙流川愛クラブ

(司会進行 全国ホタル研究会 中山 歳喜事務局長)

特別講演「ホタルの水 人の水」

遊磨 正秀会長 (理学博士)

(司会進行 全国ホタル研究会 中山 歳喜事務局長)

会員発表 (道外会員より)

①ゲンジボタルの養殖には湧水が最適 千葉 豊(岐阜県)

②長野県におけるヒメボタル雄の体サイズの特徴と分布

井口 豊(長野県)

北海道地区活動発表

①富良野市におけるホタルの生息状況および観察会の変遷

富良野の自然に親しむ会 井口 和信

②北海道栗山町ハサンベツ里山計画地のヘイケボタルの生息地づくり

栗山町ハサンベツ里山計画地実行委委員会 高橋 慎

③沙流川流域でのホタル生息の経緯と変遷

NPO 法人沙流川愛クラブ 平村 徹郎

(司会進行 全国ホタル研究会 中山 歳喜事務局長)

シンポジウム「里山の生態系とホタル」

座長 遊磨 正秀会長 (理学博士)

(登壇)

富良野の自然に親しむ会 井口 和信

栗山町ハサンベツ里山計画地実行委委員会 高橋 慎

NPO 法人沙流川愛クラブ 平村 徹郎

(司会進行 全国ホテル研究会 中山 歳喜事務局長)

「ひだから (日高の宝)」夕食会

歓迎挨拶 日高町議会 神保 一哉議長

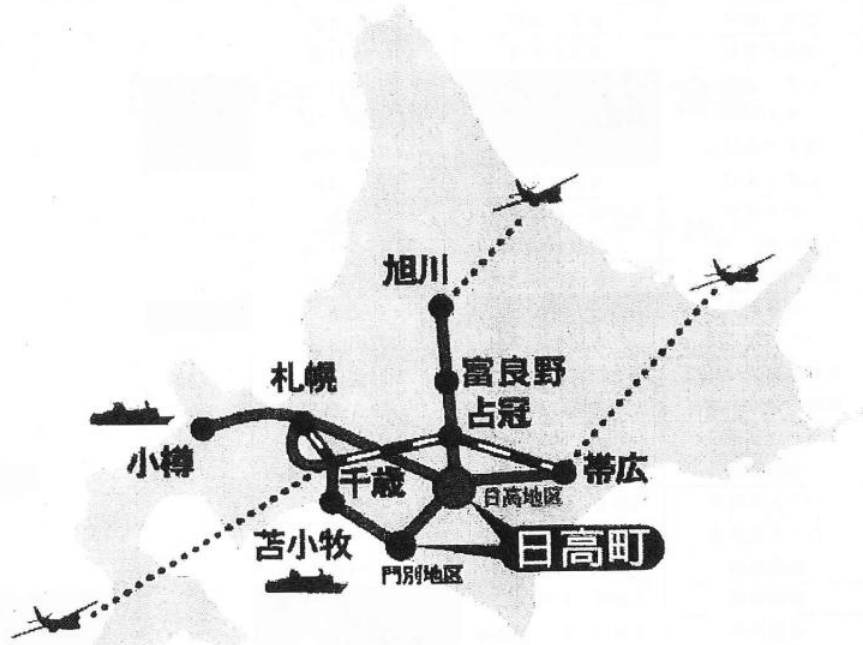
(司会進行 全国ホテル研究会 中山 歳喜事務局長)

「ひだから (日高の宝)」交流会

歓談・交流

次回大会大会旗引継式

第54回全国ホテル研究会【北海道日高大会】位置図





野外活動エリアマップ

～自然の家周辺～



町営サッカー場

みどり橋
(車両通行不可)

B 営火場

パークゴルフ場

HAコース

ハイキングコース
(至 サンゴの滝・北日高岳)

日高青少年自然の家

サンゴの沢

野外炊事場

ひだか
冒険の森

P

利用者駐車場

沙流川
(シラテイングコース川遊び)

からまつ
キャンプ場

P

バス専用駐車場

A 営火場

(交流会)

グリーンホール/とんかち広場

(夕食会)

わんぱく広場

日高国際スキー場

ひだか高原荘

ヘイケボタルの一生

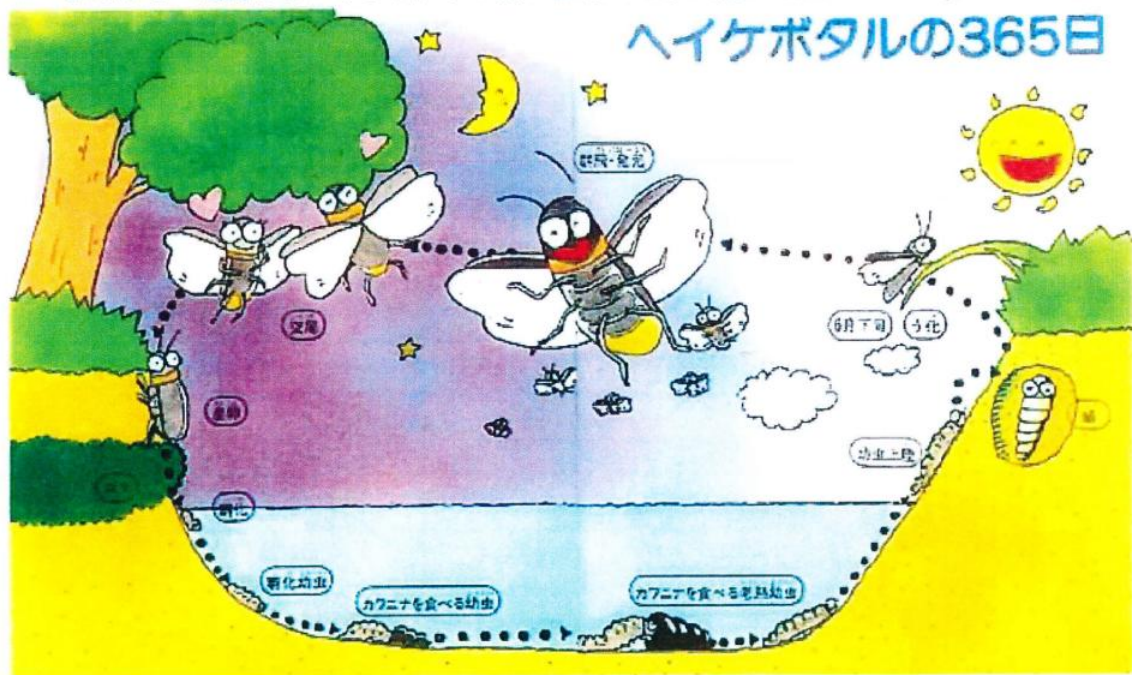
ヘイケボタルの一生はおよそ一年なんだよ。その一生を順番に見てみましょう。

夏、水辺のコケなどに産み付けられた卵は、ふ化して幼虫になるんだよ。

幼虫はすぐに水の中に入り、カワニナなどの貝を食べて成長してゆき、夏・秋・冬と三つの季節をすごすんだ。

春、成長した幼虫は水の中からはい上がり、土の中に「まゆ」をつくって「さなぎ」になるんだよ。

成虫になる準備をしているんだね。そして、夏、さなぎから「う化」した成虫は、水だけをのんで一週間くらいくらし、その間に結婚して卵を産んで短い一生を終わるんだ。



ホタル観賞のマナー

- ◇ ホタルはとってはいけません。
- ◇ カメラや携帯のフラッシュ撮影はしないでください。
- ◇ 身体にとまったホタルは、草むらに放してあげてください。
- ◇ 懐中電灯で照らすのは足元だけ。ホタルを照らさないでください。
- ◇ ロープから中には入らないでください。

引用；NPO法人沙流川愛クラブ「ホタル鑑賞会案内」より

第54回全国ホタル研究会北海道日高大会主管 日高地域活性化協議会担当作成
 (事務担当 高橋 健 沙流郡日高町本町東2-108-9)